

産経新聞

令和2年(2020) 日刊27683号

2 | 6 [木]

産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN

発行所 ©産業経済新聞大阪本社 2020
〒556-8660 大阪市浪速区湊町2-1-57
電話 (06)6633-1221(大代表)

蓄膿症の原因物質特定

阪大、働き抑え症状軽減

鼻の中にポリープができ、鼻詰まりや嗅覚の障害がひどくなる蓄膿症ちくのうに関わるタンパク質を特定したと、大阪大などのチームが5日付の米医学誌電子版に発表した。似た症状のあるマウスでこのタンパク質の働きを抑えると、症状が軽くなることも判明。新たな治療法の開発につながる可能性があるという。

チームが「好酸球性副鼻腔炎」というタイプの蓄膿症患者の血液を調べると、白血球の一種である好酸球の表面からセマフォリン4Dというタンパク質が離れ、血管の壁を刺激していることが分かった。刺激をきっかけに壁に隙間ができ、好酸球が外に出てたまり、ポリープを形成していた。

マウスを使った実験では、セマフォリン4Dを体内で作

れないようにしたり、無力化すると、症状が軽減した。

この物質は、がん治療薬としての臨床試験が海外で進行中。西出真之助教(免疫学)は「蓄膿症にも応用できるような研究を進めたい」と話した。

好酸球性副鼻腔炎は、鼻の中が完全にふさがってしまう中等症から重症の患者が国内に約2万人いるとされる。

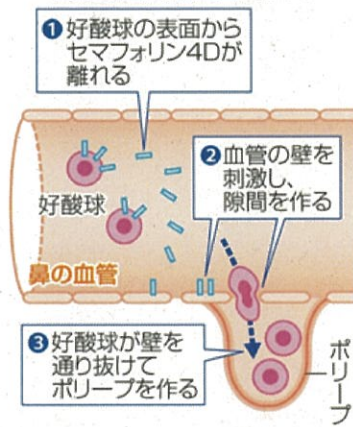
阪大、無力化で症状軽減も

鼻の中にポリープができ、鼻詰まりや嗅覚の障害がひどくなる蓄膿症ちくのうに関わるタンパク質を特定したと、大阪大などのチームが5日付の米医学誌電子版に発表した。似た症状のあるマウスでこのタンパク質の働きを抑えると、症状が軽くなることも判明。新たな治療法の開発につながる可能性があるという。

チームが「好酸球性副鼻腔炎」というタイプの蓄膿症患者の血液を調べると、白血球の一種である好酸球の表面からセ

蓄膿症悪化関わるタンパク質を特定

蓄膿症悪化の仕組み



マフォリン4Dというタンパク質が離れ、血管の壁を刺激していることが分かった。刺激をきっかけに壁に隙間がで

き、好酸球が外に出てたまり、ポリープを形成していた。

マウスを使った実験では、セマフォリン4Dを体内で作れないようにしたり、無力化するような物質を投与したりすると、症状が軽減した。この物質は、がん治療薬としての臨床試験が海外で進行中。西出真之助教（免疫学）は「蓄膿症にも応用できるような研究を進めたい」と話した。

好酸球性副鼻腔炎は、鼻の中が完全にふさがってしまう中等症から重症の患者が国内に約2万人いるとされる。